



The Kyoto University Library Bulletin

静脩

1978年8月

Vol. 15, No.3

## 学生用図書の選定について

学生用図書附属図書館選書委員会 矢島 治明  
前主査(薬学部教授)

昭和51年度より京都大学附属図書館に文部省より学生用図書購入費が配当されるようになり、このため附属図書館では館長のもとに中央選書委員会(部局長以外の各部局より選出された商議員で構成)が設置され、その規定にもとづき、予算執行のための配分額が決定されます。

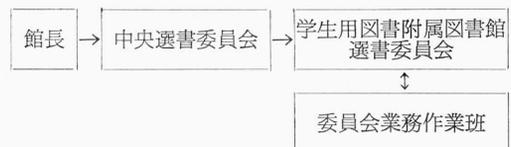
この規定が正式に決定されたのは昭和52年4月ですが、実質的な活動は予算の配当された昭和51年度より行われ、中央選書委員長には、当初、人文科学研究所河野健三教授、その後、経済学部木原正雄教授が選出され、現在は理学部楠幸男教授であります。学生用図書購入費の予算配当額は約4千万円であり、51年度にならい52年度の実行予算も以下の様に決定されました。

- 1) 学生用図書部局選定額(第一次)10,000千円
- 2) 学生用図書部局選定額(第二次) 8,800 "
- 3) 洋参考図書費 2,200 "
- 4) 継続図書 1,674 "
- 5) 学生用図書(中央館選定分) 10,000 "
- 6) 学生用図書(高額分) 10,000 "

このうち1)は各部局に選定を依頼し、それぞれの図書室におかれます。各学問分野に細分されるわけです。2)も各部局に選定を依頼するものですが、附属図書館にそなえられる関係上、比較的共通利用度の高いものが考慮されています。3)と4)

は附属図書館に備えるべき洋参考書、継続分に充当されます。

学生用図書附属図書館選書委員会は、この5)6)に関する予算の執行を決定する委員会であって、上記の中央選書委員のうちから、各学問分野を担当する様に選ばれた委員(5名)で構成され、委員会要項、および業務要領(昭和52年4月、館長裁定)にもとづき、附属図書館事務部の作業班の援助を得て活動しています。この機構を図示すれば以下の様になります。



本委員会の当初の主査は上田医学部教授でありましたが、御病気のため木原経済学部教授が後任となりました。本委員会がどの様な方針で学生用図書を選定して来たかを御報告します。

### 1. 学生用図書の選定について

各部局の図書室は年度はじめに立てた予算で運営されますので、毎月出版される新しい図書の購入に対応出来ません。しかも前述した各部局に選定を依頼する一次、二次分は主として研究レベルの大学院学生を主体とする図書にかたよって来ます。こうした時機と内容を考慮し、本委員会は毎

月一回開催され、各月に出版される図書(東販「新刊図書目録」)のうち、主として教養的なもの、学部学生諸君の勉学に必要なと判断される図書の購入を決定しています。

選定される図書は、特に境界領域をみおとすことなく、各分野を網羅し、また利用度の高いものでなければなりません。すなわち各分野別の選定比が、利用比とほぼ平行した状態が望ましいと考えられます。まず各分野別の利用状況を示したのが表1であります。この分類は上記の出版目録によるもので、各学部学生の利用比と直ちに対応しません。そこで各学部別利用比を調べますと表2の様になります。冊数にして約57,000冊、33,400人(昭和51年度)が利用し、部局の立地条件、学生数に左右されて直ちに判断を下すことは困難ですが、全学の学生諸君がすべて図書館を利用して

ることになります。傾向として教養部、法学部、工学部の学生の利用比が高く、南部地区の医・薬学部学生の利用比の低いことが目立ちます。

これに対して51年、52年度に出版目録を参考にして選定された図書の分野別比を表1に示しました。予算面からは冊数のみでなく金額も問題になります。この2つの条件を加味しますと、ほぼ利用比にみあった図書が購入されたこととなります。ただ自然科学部門の利用比に対して選定購入比が低いのが目立ちます。これはこの分野の出版比が、自然科学8.74%、工学9.92%と全体に比して低いこと、また理科系の書物は利用期間が短いので、なるべく利用期間の長いものを考慮に入れざるを得ないことによります。しかし購入された以上、非常に利用率が高いことは喜ばしいことと判断されます。従って出版比を選書の基

表1 京都大学蔵書構成比・利用比

区 分 分 類 別	蔵書構成比(49年)			利 用 比 %			51年度選書比		52年度選書比		
	全 学	図 書 館		49 年	50 年	51 年	冊数%	金額%	冊数%	金額%	
		庫 内	開 架								
和 書 (内は N D C)	I 宗教・哲学(1)	9.1%	%	%	4.9	5.1	6.8	10.5	7.6	7.3	6.5
	II 教育(3)	23.9	12	9.1	1.7	44.6	2.4				
	III 法律・政治(3)		9	21.6	26.9		23.8				
	IV 経済・社会(3)	11	14.8	6.2	8.6						
	V 文学(9)	10.2	18	9.1	5.7	5.5	11.6	14.0	3.6	8.7	8.7
	VI 言語(8)	2.4			2.7	3.8	3.6	4.3	3.6	2.5	3.3
	VII 歴史・地理(2)	15.6	14	8.6	7.2	3.5	8.1	13.9	14.9	11.3	11.7
	VIII 自然科学(4)	10.9	6	19.4	21.3	30.3	20.3	7.1	8.1	7.9	8.0
	IX 医学(4)		3	1.8	1.2		0.8				
	X 工学(5)	5.9	10	11.4	5.7	5.4	3.8	7.4	9.1	12.8	13.0
XI 芸術(7)	3.2	2.4	1.3		1.1	2.3	4.1	6.1	4.0	9.1	
XII 産業(6)	7.6	8	2.4	1.3	0.6	1.9	3.5	3.4	5.3	5.1	
XIII 全書・双書(0)	10.6	9	1.5	5.6		0.5				1.3	2.6
XIV 図書館学(0)											

表2 部 局 別 利 用 比

学部別利用比					
年度	48	49	50	51	52
教 養	24.6%	18.8%	15.6%	17.9%	18.3%
法 経	26.1	26.0	25.1	24.2	22.8
文 学	2.0	3.0	2.4	2.3	2.3
教 育	8.0	8.8	11.7	9.8	10.8
工 理	0.5	1.4	1.9	1.6	1.8
農 学	12.0	11.5	10.5	10.1	8.3
医 学	7.7	10.0	9.2	9.3	9.5
薬 学	2.1	1.8	1.7	1.3	1.5
大 学 院	0.5	0.3	0.5	0.5	0.5
大 学 院	0.7	0.5	1.2	0.6	0.5
大 学 院	8.1	9.5	10.4	11.7	11.2
大 学 院	4.0	3.6	3.9	3.6	3.5
大 学 院	1.8	2.0	2.2	3.0	3.0
大 学 院	1.9	2.8	3.7	4.1	6.0
計	100	100	100	100	100

学生1人当り利用回数					
年度	48	49	50	51	52
教 養	1.9%	1.6%	1.3%	1.3%	1.5%
法 経	10.8	11.1	10.7	9.2	9.3
文 学	1.5	2.3	2.3	1.8	2.2
教 育	5.1	6.0	8.3	6.5	7.3
工 理	1.8	5.1	7.0	4.9	5.5
農 学	2.2	2.3	2.2	1.8	1.5
医 学	4.1	5.6	5.6	4.8	5.0
薬 学	1.3	1.3	1.1	0.7	0.9
大 学 院	0.4	0.4	0.6	0.6	0.4
大 学 院	1.7	1.5	3.6	1.5	1.2
大 学 院	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4

準にすれば、ほぼ大きな間違いなく大切な図書を網羅することが出来ると考えられます。

以上の様に本委員会は月々の出版物を選書していますので、各部局の購入図書より早い対応が出来ていると思います。そこで53年度より、これら購入図書リストを各部局図書室に案内する様になりました。おそらく各図書室の予算作成の御参考になるでしょう。附属図書館で積極的に図書を購入すれば、多少とも各部局図書室の費用の軽減に役立つのではないかと考えます。

## 2. 高額図書の選定について

最近各部局図書室では、図書費の高騰によって大学院学生の研究に必要な高額図書の購入が困難になりつつあります。この様な傾向に対応するための高額図書の選定もこの委員会の任務に入っています。なるべく共通領域の、利用度の高いものが考慮の対象になりますが、予算が限られていること、さらに継続図書となりますと予算を硬直させることのため全学的な要求をすべて満すことは非

常に困難です。しかし考えの基準としてi)人文・社会系, ii)自然科学系, iii)総記系の3系列中より重要度を検討することとし、51年度よりの継続分を含め52年度の購入図書は表3の通りであります。

人文、社会系にあっては、前記の月毎の選書分にも大学院学生にも対応する図書がある程度含まれていますが、理科系大学院学生にとっては、前述の学生用図書はほとんど意味を持ちません。従って理科系大学院学生と附属図書館との関連は、この理科系高額図書との関連が唯一のものと考えられます。

以上は52年度の本委員会の活動を報告致しましたが、現在附属図書館の改築と将来像が問題となっています。委員をはなれて理科系の大学院学生からみた図書館像を考える時、これが全学的な京都大学の図書館であるためには、上記の高額図書を通じて第2次情報センターとなり、さらにはコンピューター化による情報検索センターの役割もはたせる様整備されんことを念願しています。

表3 昭和52年度 学生用図書〔高額分〕購入一覧表

I. 継 続 分			II. 新 規 分	
分野別	書 名	金 額	書 名	金 額
A. 総記	1. U.S.National Union Catalogue. Vol.485—539. (55vols.)	846,912 <sup>円</sup>	1. Comprehensive Dissertation Index. 1861—1872. 42vols.	920,000 <sup>円</sup>
		2. Gesamtverzeichnis des Deutschsprachen Schrifttums. 1911—1965. 38vols.	367,000	
		3. American Library Association Bulletin. V. 21—58, 60—63. 42vols.	186,358	
B. 人文 社会	1. 有価証券報告書 1977.	517,000	1. 戦旗 V 1—4	168,360
	2. OECD刊行物 1977.	402,111	2. 日本外交記録文書(外務省蔵) 1, 2回	826,000
			3. Social Science Citation Index. 1977.	488,000
C. 自然 科学	1. 赤外線スペクトルチャート 6 vols.	783,450	1. Gmelins Handbuch der Anorganischen Chemie. 23vols.	1,881,797
	2. Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. 12vols.	2,067,225		
	3. Science Citation Index. 1976.	1,040,000		
D. その 他			1. Library Literature. 1921—1942. 4 vols.	67,267
			2. Bibliographie der Fremdsprachigen Zeitschriftenliteratur. V. 30—36.	451,780
			3. Bibliographie der Deutschen Zeitschriften Literatur. V. 108—111. 113.	449,988
小 計		5,656,698		5,806,550
			合 計	11,463,248